

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月29日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3893600035
事業所名 (ユニット名)	グループホーム紅葉の里・おだ いちよう
記入者(管理者) 氏名	谷岡 亜由利
自己評価作成日	令和1年 10 月 18 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 ・家庭的な雰囲気の中で自分らしい生活が続けられる笑顔で毎日が過ごせるホームを目指します。第二のふるさとと思っていただけのように暖かいもう一つの家族を作っていきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 *「紅葉便り」の内容をもう少し工夫し、手にとってよんでいただけるものとする。・家族様のご意見を言いやすいようスタッフみんなの声をかけをより親しみやすいものとしていく。→「紅葉便り」はスペースも限られているためレイアウトは特に変えることはしていないが、写真を少し多めに載せている。家族からは毎月の分を比べると顔の表情の変化がわかりやすいと意見をいただいた。 *運営推進会議の内容を有意義な者とするために地域の方にもっと当ホームを知ってもらおう活動として「紅葉便りの地域版」を発刊し、ホームを知ってもらい気軽に立寄ってもらえる環境を作り、意見を現場に反映させサービス向上につなげる。→「地域版紅葉便り」は発刊しており、地域の方にも「良い活動ですね」とご意見をいただく事がある。運営推進会議への参加までは行かないが、地域の方々に当ホームを認知いただけている。地元のカラオケ大会へ招待されたり、花を持ってきてくださったりしている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 県内全域に介護福祉事業を展開する法人が運営し、過疎・高齢化の進む地域にとって欠くことのできない事業所である。法人全体で研修に力を入れ、職員が働きながらスキルアップを図り、委員会活動などの役割を担うことでやりがいを持てるよう就業環境を整えている。研修での学びから、職員は利用者の最期の日まで人間らしい存在であり続けることを支えるケアメソッド「ユマニチュード」を実践に取り入れることで、少しずつ利用者の反応の変化を感じ始めている。天気を確認しながら日課の散歩を自由に楽しんだり、鉢植えの花を管理したり、庭先のベンチで日向ぼっこしながらくつろぐなど、利用者の表情は和やかで、住み慣れた愛着ある地域での暮らしを満喫することができている。</p>
---	---	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	・普段から利用者の話を聞き気持ちを理解しようと会話している	○	/	△	生活の中での会話や表情、しぐさを見るほか、家族から意見を伺うことで希望や意向を把握している。アセスメントシートや日々の介護記録の特記欄を活用し、把握した情報を記録するように取り組んで欲しい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	・スタッフみんなで話し合いながら支援に努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	・家族の意見も尊重しながら支援している、面会時に確認している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	・気持ちシートの活用や普段からの聞き取りを記録している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	・毎日の暮らしの中での会話を通し思いを知りスタッフ間で更に話し合っている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	・サービス開始前に個人の情報や家族さんからの話、聞き取りを行い、情報を整理しスタッフに周知し、各自確認している サービス後も情報は共有している	/	/	△	入居前の生活歴や暮らしの情報等は利用者や家族、これまで利用したサービス事業所から聞き取り、書面にまとめている。入居後に収集した情報も新たに追記していくことで、利用者をより深く知ることができるように工夫して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	・普段の生活の中で観察を行い、センター方式の一部を使用して作成、全員で共有している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	・普段の生活の中での観察や申し送りノート、介護記録等々情報共有している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	・観察や申し送りで確認し、要因の可能性を話し、本人にも話をしっかりと聞くように努めている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	・申し送りや介護記録等で把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	・その場であったり、スタッフ会において検討している	/	/	○	月1回開催するスタッフ会では、事前に家族に意向を聞き、利用者に必要な支援について話し合っている。話し合いでは、職員同士が気軽に意見を話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	・同上	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	・カンファレンスにおいて課題を話し合い、介護計画に取り込んだり、解決のための工夫をしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	・本人、家族に確認し、作成している	/	/	/	利用者ごとに担当職員が付き、アセスメントやモニタリングを担当している。管理者や計画作成担当者がそれらを取りまとめ、介護計画書を作成している。職員は利用者一人ひとりの目標に見合った内容となっているが再考し、アセスメントやモニタリングに基づき、小さな成功体験を繰り返しながら共に喜びを分かち合っている具体的な記載を望みたい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	・定期的なカンファレンス以外に、日常的に本人及びスタッフ、面会にこられた家族の意見や思いを確認している	○	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	・穏やかに過ごせるような計画としている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	・ご家族への報告や相談、催し、外出等盛り込まれている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	・いつでも手にとって確認できるようにしてある	/	/	○	スタッフ会で介護計画を把握して理解し、職員間で内容を共有している。担当職員が計画の実施状況を取りまとめ、モニタリングを行っている。介護計画に沿ったケアの内容は項目ごとに番号を入れ記入している。利用者の様子は職員同士の会話や申し送りで共有することが多く、記録のボリュームや内容は職員の個人差がある。職員の気づきや工夫、アイデアは、口頭での共有が主であり、申し送りノートを使用することもあるが、介護記録の欄を活用し、アセスメントや介護計画に反映させて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	・介護記録に記載し、各自確認し印をおす、また、申し送りやノートで情報共有して、支援に繋げている	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	・介護記録に記載している	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	・スタッフ間で情報交換しており、いいと思うものは申し送りノートに記載し実行するようにしているが、全てをしてはいない	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	・定期的に行っているが、状況と変わればその都度行う	/	/	○	介護計画の見直しは6か月ごとに実施している。毎月担当職員が計画の実施内容をモニタリングし、利用者の状態に変化が生じた場合には随時家族と話し合って現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	・毎月モニタリングをして確認している	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	・変化があった場合は家族に報告連絡し、スタッフ間で話し合っている、計画見直し必要であれば作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	・月1回は定期的な会議をもち話し合い記録しているが普段度々している小さな話し合いは記録していない	/	/	○	毎日の申し送りやスタッフ会を課題解決の場として活用している。緊急案件がある場合には、当日の勤務職員で話し合いを行っている。話し合いの内容は申し送りノートで全職員に共有し、確認後に押印している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	・スタッフみんなが意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	・集まりやすい方々に開催している 場所はホールであったり会議室であったりしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	・書記が必ず伝える仕組みを作っている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	・申し送りノート、口頭等で行っている	/	/	○	家族のやりとりや医療情報も含めた支援全般の情報や業務に関わることは、申し送りノートで全職員に共有できる仕組みを作っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	・申し送りノートは確認すれば印を押す仕組みにしている また口頭においても具体的に伝えていく	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	・全ての利用者に毎日是对応していないが極力努力はしている	/	/	/	1日の過ごし方を自発的に決められる利用者は、天気を確認しながら散歩に出かけ、事業所での集団生活の中にも自由な暮らしを楽しむ様子が窺えた。思いを伝えることが困難な利用者や部分的に支援が必要な利用者が多く、職員は気持ちに寄り添い、したいことを自由に選べるように心がけている。生活歴などのこれまでの情報を活かした会話が聞かれ、懐かしさや話題が広がるやりとりが行われているが、発言の少ない利用者を含めたすべての利用者に、アセスメントを活かして言動や表情を引き出すような工夫をして欲しい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	・レクの内容や、歌曲曲を選んだり、ご飯の量やおやつ、掃除や体操への参加の有無等々確認している	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	・それぞれ利用者の状況に合わせて、働きかけている特にコミュニケーション技法を使い利用者の気持ちに寄り添えるよう努めている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	・利用者それぞれの生活リズムを崩さないようその方に応じた習慣やリズムで対応している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	・利用者が嬉しいと思えることや好きなことを把握し、やりがい等感じていただけるよう努めている	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	・表情、言動、生活層などからスタッフと話し合い、意向に沿えるよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	・利用者の人権や尊厳、プライバシーを守る研修を受け、声かけや態度に注意している	/	○	○	毎年、職場内・外研修で学んでおり、参加した職員はスタッフ会でフィードバックしている。管理者は「声かけには注意したい」という課題を持っており、全職員の支援を振り返り、自ら気づきを持てるようにして欲しい。また、管理者は概ね優しい言葉で対応できていると評価しているが、時には職員の言葉遣いや声の大きさなどに配慮が欠けている場面もあり、十分に配慮した対応を目指している。居室の出入りには、職員からノックや声かけを行い、不在の居室ドアは閉め、利用者専用の場所である認識が根付いている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	・利用者一人ひとりの人格を尊重し声かけに配慮している	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	・自尊心を傷つけないようプライバシーを守り注意を払っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	・入室時は必ずノックをしてから入るように努めている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	・同意書を会社とかわしており、利用者の事を外部に漏らさないよう日頃より注意している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	・利用者一人ひとりに歴史があり、料理の仕方や祭りや季節の行事等教えてもらう事で多く感謝の言葉を伝えている	/	/	/	調査日には、利用者同士が連れ立って散歩に出かけたり、様子や隣り合う利用者同士が歌詞カードを指差しながら仲睦まじく歌ったりする様子が見られた。世話を焼くことが好きな利用者が度を越してしまうことでトラブルを招きやすいため、職員は十分に様子を見守り、時には間に入りサポートしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	・日々の暮らしの中で、利用者同士が声かけあったり、手伝いをしたりすることが大切であることを理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	・利用者の関係を把握し、トラブルが回避できるようテーブル席やソファ席、入浴の順番などにも配慮している また難聴の方が孤立しないよう積極的に会話を繋げる役割も務めている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	・必ず間に入り双方の意見を聞き、不安や不満が大きくなりたくないよう努めている、	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	・入所前の調査や本人、家族より情報を収集し、把握している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	・本人、家族から情報を得てその後も少しずつ把握していくようにしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	・全ての利用者に対してできてはいるが、地元の敬老会等に参加される方もいる				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・気軽にいつでもいらしてもらい、居室やホール等でゆっくり会話できるよう努めている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	・過ごしやすい季節には散歩を楽しまれる利用者もいる(安全確認等行っている) ・ホーム前でテーブルを出してお茶を飲んだり、ベンチに腰掛けて会話したりしている	○	○	○	日常的に散歩を楽しんだり、隣の住宅の大きな庭園を借りてお茶を飲んだりしている。事業所前に置いたベンチには、好きな時に利用者が気分転換の様子も見られた。重度の利用者にも、状態や体調に配慮しながら居室に閉じこもることのないよう戸外へ出る機会を作っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	・外出はしているが、ボランティアやサポーターの協力は得ていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	・ホーム前庭でお茶を飲んだり近道を散策したりしている 体調、体力を考慮し遠くへは行かない			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	・ご家族の協力でお墓参りや地元の知人宅等に出かけている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	・認知症の研修やユマニチュド研修に参加し、認知症について理解しようとする努力、スタッフ間でも話し合いを繰り返しながら不穏等軽減できるようケアを行っている				利用者ができることは職員間でアセスメントを行っている。管理者はできることは見守り、できそうなことは職員と一緒に行動する姿勢を持っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	・普段から体調変化に注意し、動き等も観察している、体操やレク、個別の運動等を通じて維持できるよう努めている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	・安全に配慮し、時間がかかっても見守りや声かけを行い達成感や自分の役割と考えている気持ちを大切にしている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	・それぞれの利用者のできる事や役割を把握し、そういう場面を作れるよう努めている				大切な存在である思いを伝えながら支援するユマニチュドの技術を学び、職員は認知機能が低下した利用者にも安心してケアを受け入れてもらえるように関わっている。利用者は洗濯物干しや食器洗い、掃除などの家事を中心に役割や出番を持ち、介護計画に盛り込んでいるケースもあるため、可能な限りすべての利用者へ支援が広がることを期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	・普段より利用者一人ひとりの楽しみや役割、出番等ができる場面を作って楽しめるよう努めている	○	○	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	・地方祭等で地域の知人等に会えることを楽しみにされている等の支援をしている				

愛媛県グループホーム紅葉の里・おだ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	・衣服や髪型は自身で決めており、それができない方に関しては一緒に選び決めていただいているよう支援している				利用者のプライドに配慮しながら、職員は季節に応じたコーディネートができるように支援している。どの利用者も清潔に身だしなみが整っていた。食事の際には、利用者の食べこぼしをさりげなく拭く職員の様子が見られた。重度の利用者には、家族の協力のもと、利用者と一緒に服を選べるように声かけをしている。利用者の本人らしさを追求した支援ができるよう、おしゃれのアセスメントを取り入れて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	・ホームで買物レクを行い、業者に来てもらい衣服等についても自分で選べる機会を持っていただいている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	・季節に応じた服装を一緒に選び、決定を本人にさせていただくよう努めている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	・季節、外出先に応じた衣服を楽しめるよう支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	・本人のそばに行き、さりげなく小さな声で対応している	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	・店に行きたい方には送迎を行うが、ホームに来てもらいカットしてもらっている人がほとんど				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	・ご家族が準備したい服を着ていただく事が多い、清潔を心がけている			△	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	・食事を楽しく美味しく摂れる大切さを理解できている				日常的に食材や調理方法について職員間で話し合いながら、週ごとに職員が持ち回りで利用者の好みを取り入れ、献立を作成している。法人本部の栄養士に食事全般の相談ができ、医師からのアドバイスも取り入れられている。事業所からスーパーなどの店舗は遠く、注文配達を利用せざるを得ない状況である。下ごしらえなどの調理を利用者と一緒にすることもある。各ユニットで違う献立であり、利用者の好みやアレルギーの有無にも配慮している。利用者の家族が差し入れた地域特産の椎茸や前日に利用者や仕込んだ袖子の「ゆねり」を箸休めに添え、職員や利用者の中で懐かしい話に花を咲かせていた。食器類は使いやすさを重視し、プラスチック製の軽量食器を事業所で準備している。居室内では、持ち込んだ好みの食器を使う利用者もいる。職員は声かけや見守り、食事介助のサポートを行っている。午前と午後のお茶の時間は職員と一緒にしているが、食事は一緒に食べていない。体調を崩している利用者を除き、すべての利用者が同じリビングに集い、食事を楽しみに待っている様子が見られた。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	・利用者の食べたい物の希望をメニューに取り入れている 下ごしらえや配膳、片付け等一緒にやっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	・次は何をしたらええかなと毎日の作業を楽しみにされ自分の仕事と考えている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	・本人、家族から聞き取りし把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	・誕生日には特に本人の希望を取り入れている。また季節の食材を使用し旬のものを味わっていただくよう努めている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	・下痢等体調不良時はおかゆ等に切り替えたり、嚥下不良の方には食べやすい大きさや水分を寒天で固めムセを防ぐ工夫をし摂取状況を観察し食べやすくできるよう努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	・軽くて割れない、持ちやすい食器を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	・食事時間は介助しながら利用者全体を見守り、適宜声かけ対応している 月一回一緒に食事をしている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	・ホールにキッチンがあるので調理の音や匂いがダイレクトに感じていただいている「今日は何ができよるの？」と聞かれることあり		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	・摂取量はそれぞれ違うのがスタッフはそのあたり把握しており、水分量はチェック表にて確認しながら、確保している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	・食べやすく工夫したり好きなものを増やしたりして対応している 水分も同様に対応している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	・栄養士はいないが、同じメニューが続かないよう工夫し、資料等も参考にしている 当ホームに入所してから血糖値が安定する方が多いと協力医のコメントあり			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	・調理用具は毎日消毒し清潔を心がけている 食材に関しても使用日の日付を入れ管理している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	・研修等にて十分に理解している				不具合の訴えや様子の変化に応じて、利用者の歯科受診につなげている。セルフケアができる利用者の口腔内の状態を見逃しがちであるため、すべての利用者の現状を定期的に確認して欲しい。できることを行ってもいながら難しくなっていることを介助し、セルフケアできる利用者は食後に職員から声かけをすることなく居室に戻って口腔ケアを済ませ、使用したうがい受けなどの用品を手入れする様子が見られた。職員は勉強会で口腔ケアを学び、実践に活かしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	・概ね把握できている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	・歯科衛生士より歯ブラシの選び方や磨き方等学び利用者の口腔ケアに行かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	・義歯ブラシできれいに洗い洗浄、夜間は義歯洗浄剤につけて衛生的に支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	・毎食後口腔清潔のための行動を支援している(義歯洗浄や歯磨き、うがい支援、口腔内残渣の確認等)			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	・様子を見て歯科医へ治療に行っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	・理解している トイレでの排泄をできる限り支援している				職員は利用者の排泄パターンに応じた声かけや誘導を実施し、トイレの排泄を基本に支援している。汚染したパッドを居室内各所にしまい込む利用者には、処理用のバケツを用意して、清潔が保持できるように工夫していた。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	・理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	・排泄チェック表を利用している パターン把握している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	・排泄状況(量や失禁状態等)により見直しを行っている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	・食事量、水分量、薬等の可能性の確認、場合により協力医への相談等行い、改善に努めている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	・排泄チェック表や日頃のパターンから実施している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	・全員に対しては行えていないが、相談し選んでいただいたことはある				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	・本人の使用しやすい物や尿量等に応じ使い分けしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	・一日の水分摂取量や繊維質の摂取など工夫はしている またヨーグルトや運動も取り入れている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	・利用者の希望日に入浴できるようにはしていないが、温度や長さ、順番等には対応している	◎		○	週3回、基本的に午後から入浴時間と設定しており、季節や利用者の希望に応じて入浴できるよう配慮している。現在は利用者からの毎日の入浴希望は聞かれていないが、管理者は希望があれば検討したいとしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	・ユニットバスにて個室のため、他者に気兼ねなくゆっくり落着いて入浴できるようにしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	・自分で洗身やシャワーができる方、そうでない方状態に応じて安心安全に配慮し入浴できるよう支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	・声かけを複数回に分けたり、声かけの内容を工夫し、無理なく自然に入浴できるよう工夫している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	・バイタルチェック、健康観察実施し、入浴中、その後においても観察継続している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	・夜勤者、申し送り等にて把握できている				ほとんどの利用者は良眠である。認知症状の進行が顕著で、昼夜逆転、睡眠障害などの周辺症状が強い利用者が2名おり、現在日中の活動や過ごし方についてアセスメントを行い、支援方法を検討している。精神面で服用が必要になる利用者もいるため、その場合は医師と相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	・日中の活動を増やしたり、体を動かしたりする事を増やすなどまた心配事がある場合は傾聴し不安の軽減に努めている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	・利用者のパターンを把握しているため眠れない日に関しては安全を確保し本人が納得できるよう過ごしてもらおう努めている そのための薬剤を増やさないよう対応している				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	・昼寝や休みたい時に横になれるよう取り組んでいる				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	・本人が希望したり、連絡の必要性を感じた場合は電話して話をさせていただくように支援している				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	・年賀状などシールを貼ったり名前だけ書いていただいたりして気持ちを込めて作成し届けるよう支援している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	・携帯電話を持っている利用者は自由に連絡されている 他の利用者も電話をしたい等の希望があればかける様支援している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	・手紙は本人にお渡しし、その後家族にもお伝えしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	・必要時は家族に協力を願っている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	・全ての利用者が自分でお金を所持していないが、意味の大切さは理解している				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	・ホーム周辺に買物できる店がないため少し距離のあるところへ出かけていく買物レクやホーム内で開催する買物レク以外ではあまり機会がない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	・近くに店がないため働きかけは行ってないが、年2回ホーム内で行い巡回物レクの業者には協力理解等を行っている				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	・数名は自分で財布を所持しており、外出時に買物したりしている 入所時自分で持っていたが、事務所に預けている人もいるが買い物レクの時には持ってもらっている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	・入所時に話し合っているが毎回は行ってない				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	・預り金に関しては金銭出納帳を作成し、必要時家族に確認してもらっている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	・家族が対応できない病院受診等	◎		◎	へき地に所在するため交通が不便であり、利用者の病院受診や買い物の依頼など、職員は日常的に要望に添えるよう柔軟な対応ができています。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	・常に掃除を行い清潔を心がけている 季節の花を植えたアプローチや絵や花を飾ったりして明るい雰囲気づくりに努めている	◎	◎	◎	訪問時は冬の始まりを迎え、霜が降りる時期であったが、敷地内のシンボルツリーである紅葉の木の紅葉も美しく目を楽しませてくれる。玄関前に並ぶ沢山のプランターには、色とりどりのパンジーを植え、春を迎える準備が行われていた。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	・掃除を心がけ清潔にしている 廊下には利用者の写真や作品を飾り、季節に応じた展示物などで心地よい空間を造っている	◎	○	○	共用空間は木材をふんだんに使用した温かみを感じる雰囲気、すっきりと整理されている。外を散歩する利用者に手を振り、家庭的な暮らしが実現されている。リビングの2面が窓となっているため、事業所内には自然光が行き届いている。掃除は利用者と一緒にすることもあり、浴室やトイレの換気は十分に行われ、清潔な状態であった。リビングには食事をするスペースとテレビを見るスペース、レクリエーションを楽しむつろぎのソファのスペースなど、シチュエーションごとに使い分けができることも利用者の刺激の1つとなっている。洗濯ものを畳んだり、モップがけを利用者が職員と一緒にやってみようと思わせる工夫をしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	・毎日掃除は行っている 特にトイレの臭いには気をつけている					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・季節の食材や植物、節句人形やクリスマスツリー、正月飾りなど見たり食べたりして感じてもらっている					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	・ホール、居室どちらにいても双方の様子が伝わるようになっている 終日気の合う利用者同士が楽しそうに会話していることが多い					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	・廊下に面してドアがあるがホールからは見えなくなっている 使用時は常にドアは閉めてある					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	・自宅で使用していた家具や椅子、写真や装飾品等持参され居心地良い空間を造るよう努めている	◎		△	居室には使い慣れたタンスやテーブル、いすなどを持ち込み、利用者や家族が協力して自宅での暮らしを再現するなど、居心地の良い空間づくりをしている。不快な臭気を感じる居室もあるため、配慮した対応を望みたい。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	・居室前には表札を掲げトイレや浴室の表示もある 利用者に分かりやすく使いやすく工夫している			○	居室ドアと間違いやすいトイレのドアには分かりやすく表示をしている。玄関床とスロープが同色同素材であるため、境目にテープを縁取って注意喚起し、自立歩行の利用者もスムーズに出入りできるような工夫が確認できた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	・同上					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	・自分の部屋は好きなように飾ってもらっていい、買物レクで購入した物や家族の持参物、写真等飾ってある 新聞や広報紙等置いている方もある					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	・理解している 日中は鍵をかけていない	◎	◎	◎	日中に玄関の施錠はなく、階段にある転落防止の門扉にも施錠はしていない。職員に研修で鍵をかけることの弊害について十分な理解し、実際に自由に出出する利用者の姿が見られた。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	・日中鍵をかけていないことに関して家族からは不安視する声はないがあれば理解していただけるよう話し合うよてである					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	・散歩する方がいることは近隣に伝えてあり見守り等お願している 玄関外にベンチを設置しており、気分転換等に利用していただいている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	・医療情報等で各自確認している また新しい情報は送りやノートにて確認把握できる	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	・毎日のバイタルや健康状態に関して記録しており、異常等注意している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	・定期的な訪問看護師や協力医に気軽に相談できる関係であり、入院に繋げる等実施している	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	・協力医はいるが、希望すれば望む医療機関を受診できるように支援している	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	・支援している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	・必要に応じて家族に説明したり話し合ったりしている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	・相談員や看護師と連絡を取り書類や電話等にて情報を提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	・定期的に相談員と情報交換している	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	・不定期だが関係作りに努めている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	・定期以外でも訪問看護師に気軽に相談でき、アドバイスをもらうことができる	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	・いつでも相談できる体制がある	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	・異常時にも対応してもらえる体制があり、早期の治療に繋がっている	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	・薬剤情報をいつでも確認することができる また理解している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	・一回の服薬に関して3段階で確認し誤薬がないようまた飲み忘れを防ぐ体制をとっている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	・常に表情、行動、言動、体調等確認している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	・飲みにくいようであれば粉にしておいてもらったり、体調、症状の状態の観察を行い記録し情報提供している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	・入所時に一回説明するが、その後状態変化に応じ家族と話し合いを行い意向を確認し方針を共有している	/	/	/	看取り支援を実施し、利用者の状態の変化に応じて家族や医師、訪問看護と連携を密に行い、方針を共有している。常に緊張感を持った支援が続くため、管理者は職員のストレス軽減や思いの共有に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	・職員や協力医療機関等にもきちんと伝え共有している	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	・スタッフにある看取りの不安等について理解し、また力量把握している 支援の見極めを行っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	・丁寧に伝えることを心がけて説明に当たっている 股理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	・日頃より相談できる関係性を築いており、変化の都度相談、対応等を行っている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	・気持ちに寄り添えるよう努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	・毎年開催される感染症対策研修会に参加し、まず予防、早期発見、対策等に努めている	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	・マニュアルを作成している また感染対策キットを事務所に準備しており素早い対応ができるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	・ニュースやネットからあるいは行政からの情報を確認している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	・保険所、行政地域の学校等からの情報を確認している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	・出勤時手洗いうがいは励行している また来訪者にも手指消毒剤やマスクを準備し熱発ある方の面会は遠慮いただくよう貼紙しているが家族等がきちんとできているかの確認はできていない	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	・利用者の状況や性格を把握し、面会時の家族との情報交換や意向の確認等を行いながら関係性を築いている	/	/	/	毎年家族会を開催し、運営推進会議でも利用者と一緒に園芸や食事を楽しめるように工夫している。日々の暮らしや運営上の事柄や、職員の異動などを毎月の「もみじ便り」で伝えている。利用者の状態の変化に応じてその都度家族に連絡し、連絡方法も電話やメールなどの家族の希望に応じた対応をしている。来訪する家族も多く、どの職員も日常の暮らしや変化を伝えることができるようにしており、気軽に相談できる雰囲気を感じている家族の心情を理解している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	・スタッフは明るく元気に気持ちよく対応する事を心がけており、家族が気持ちよく過ごせるよう備品やお茶等準備するよう努めている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	・行事や催しへの声かけを行い気軽に参加いただける機会を作っている(運動会、もみじまつりなど)	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	・毎月「もみじ便り」を発行し利用者の様子をお伝えしている 文字や写真を多用し見やすく楽しいものを作成できるよう心がけている	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	・家族も思いに関してはお便りだけではなく電話対応や資料等をお送りする事もある	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	・利用者の状態に関してはきちんと正確に伝えるようにしているが、家族がそのことでホームに気兼ねしたりしないよう言葉遣いや対応等にも注意している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	・毎月の「もみじ便り」でも報告するが、それ以外に別紙にて送る事もある	/	○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	・運営推進会議、運動会、もみじ祭りなど複数の家族が揃う機会を設けている 自然に会話が生まれている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	・今後起こりえるリスクを説明し、それに対する今できる対応策も併せて説明し、家族の意見もいただくようにしている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	・必ずスタッフあるいは管理者が対応し、意見要望相談の確認をしている また電話やお便りも利用している	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	・基本管理者が対応している きちんと説明し理解納得を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	・丁寧に説明し納得いく退去先に移ることができるよう支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	・改定理由説明等の文書を作成し、同意書をいただいている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	・設立時には説明会を設けたと聞いている。その後は地域の一部の方にもみじ便りを送付、現在は地域版を送っている	/	◎	/	地域との関わりの中で、自治会が事業所にとって大変協力的で支えとなっている。地域行事の情報を得て、可能な限り積極的に参加している。農作物や花を差し入れてくれる地域住民もいるなど、地域との関係も構築されている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	・挨拶はもちろん、自治会のカラオケ大会の招待をいただいたり、地方祭でホーム前で神事を行っていただく。また花農家の人が度々花を持参していただくなど関係性を保っている	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	・散歩をしている利用者の見守りや声かけていただいている	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	・散歩をしている地域の方が手を振ってくれたり一緒にお茶を飲んだりしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	・ホーム前を通っている学生や近所の方たちと挨拶を交わしたり、話したりしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	・地元のボランティアの方々の踊りや行事への参加、セラピードッグや幼稚園児の訪問、地方祭獅子舞訪問等	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	・地域の方の見守り支援、地方祭時の神事や獅子舞訪問など支援いただいている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	・「地域版もみじ便り」の発行 地元の商店の協力で買物レクの実施ができている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	・参加人数の少ないときもあるがバランスはよい	/	○	○	運営推進会議は参加者が集まりやすい夕方の時間帯に開催している。参加者数の変動はあるが、利用者や家族、地域の住民が毎回参加し、管理者はマンネリ化を懸念しながら参加者の印象に残る会議の工夫を検討している。会議では参加者から一言でも発言してもらえよう配慮し、利用者の暮らしぶりや運営状況の説明だけでなく気軽に意見交換を行うなど、地域住民に理解や関心を持ってもらえるように分かりやすい説明に努めている。参加者から出された意見や情報を運営に反映し、状況や結果報告を写真などを用いて分かりやすく伝えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	・都度説明報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	・参加いただいた方皆さんに意見を求めている 質疑応答もあり結果報告している	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	・行事と併せて開催する時もあり、時間を調整し、参加しやすくしている	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	・いつでも見られるよう玄関にファイルを設置している また参加できなかった家族にも送付している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	・玄関及び事務所に掲示してあり日々目に付くようにはなっている 普段の会議において理念に近い表現でスタッフに伝えてはいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	・玄関に掲示しているが、改めて伝えることはしていない	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	・研修委員会があり、スタッフが研修に参加しレベル向上に努めるよう	/	/	/	法人代表は職員会議などに参加し、職員と顔を合わせている。委員会活動を通じて職員の自主性を育てたり、法人全体でユマニチュードケアの知識を深めたり、ストレスケアチェックを実施するなどの工夫をしている。法人本部とは離れた場所に事業所はあるため、管理者は法人と職員をつないでいる。すべての職員が女性で、平均年齢が60歳を超えているため、管理者は今後の人材育成を課題としている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	・定期的に勉強会を開き、ユマニチュード研修や外部研修に参加できるようにしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	・成長シートを取り入れ各職員の取り組み姿勢や成果を評価できるように取り組んでおり、環境整備の予算等も理解している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	・法人内の成長支援会議や他法人との連絡会、地域密着型サービス協会への加入等の取り組みがある	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	・衛生推進委員会があり、そこから各事業所に腰痛防止、ストレス対策等の情報があり、取り組みしている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	・研修、勉強会参加にて理解している	/	/	/	虐待や身体拘束に関する委員会活動を通じて学び、職員に正しい認識が広がるよう努めている。気になる行為の発見時には職員から管理者に報告することになっており、職員は手順を理解している。管理者は利用者への声かけの面では注意が必要だと感じており、職員が適切な対応ができているか振り返り、職員自ら気づきを持てるような取組みを望みたい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	・日常的に行っており、その都度話し合っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	・不適切なケアが行われないようまずスタッフの虐待、身体拘束等防止の理解、管理者の注意、確認等に取り組んでいる	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	・スタッフの言動、表情等に注意し、会話内容等気をつけて対応している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	・研修や会議の内容等において理解できている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	・職員会時や別に委員会を持ち話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	・説明し理解をいただけるよう努めている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	・研修に参加し、理解できるよう努めている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	・研修を受けて制度についての理解をしているが、必要な方には支援できるよう努めたい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	・相談できる関係性は築けている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	・緊急時、及び事故に対するマニュアル作成し、周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	・地域の消防署に協力を得て訓練したり、研修に参加し対応について確認している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	・事故報告書、ヒヤリハット共に発生した場合は会議において検証、対応策を講じている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	・スタッフ会やその都度話し合いを行い、柔軟に対応し事故防止に繋がるよう努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	・マニュアル作成しており、スタッフは確認している。苦情があった場合はのっとって対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	・マニュアルに沿って速やかに対応できるようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	・苦情についてはスタッフ、管理者で検討し場合によっては会社責任者に連絡して指示を仰ぐようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	・日々の生活の中で自由に伝えられるような関係性を築く努力はしている。またこちらからさりげなく聞く事もある			○	利用者から意見や要望は日々の生活の中で聞いている。また、運営推進会議に参加して意見を伝える利用者もいる。意見を聞くことが困難な利用者には家族からの意見を重要にし、日々の連絡や来訪の機会を活用して何でも話してもらえるよう職員から声をかけている。職員の多くは意見を自由に伝え、家族から頼りにされている様子が窺えた。管理者はさらに信頼しあえる職場づくりを目指しており、前向きな力を感じることができた。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	・玄関に意見箱設置している。また普段より要望や意見を伝えやすいようお便りや推進会議、面会時、家族会等機会あるごとに確認している	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	・契約時にお伝えして以降は相談があればお伝えするようにはしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	・定期的な訪問はないが、要望や提案等についての意見は伝えやすい環境にある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	・日々のミーティングやスタッフ会またその都度話を聞いてくれ、より良い支援や事業所の姿勢について話している			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	・サービス評価の意味や目的を理解し、全スタッフで自己評価に当たっている				サービス評価の目的を事業所は正しく理解し、職員に丁寧な説明を行っている。家族や地域住民にも評価の理解が徐々に浸透し始め、引き続き理解が深まるよう継続して周知して欲しい。また、定期的開催される運営推進会議を活用し、目標達成に向けてモニター協力を働きかけて欲しい。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	・評価を通してできていないことや今後の課題等認識しスタッフ全体で今後に活かすよう努めている					
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	・結果を踏まえスタッフみんなで取り組むよう努めている					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	・運営推進会議にて報告し、今後の取り組みに関して経過を見ていただいている	○	△	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	・確認している					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	・自然災害、火災等マニュアルは作成しておりスタッフもいつでも確認できるようになっている				管理者は過疎・高齢化の進む地域住民に、訓練への協力依頼が負担とならないか不安に思っている。今までに被災経験はないが、土砂災害の警戒区域に指定されている地域に事業所が位置するため、災害に対する不安要素が大きい。運営推進会議でも災害に関する意見交換が行われているものの具体的な対策がなく、家族や地域住民との協力、支援体制の早急な構築を望みたい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	・火災に関する訓練は年2回、日中と夜間を想定して実施、水害等災害は年1回程度計画を立て行っている					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	・定期的ではないが、訓練の時などに行っている					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	・消防署には訓練に参加いただき、講習をもらうようしているが地域住民や他事業所の参加はない		△	○		x
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	x	・災害時には協力いただく介護施設はあるが共同訓練は行っていない					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	・事業所でユニチュート研修会を開いたり、内子町グループホーム連絡会で「認知症講演会」や「勉強会」を毎年かいてしている				「もみじ便り」の地域版を自治会に配布し、運営推進会議で意見をもらうなど、声をかけてくれる地域住民が増えたと実感している。今までに相談事例はないが、事業所として具体的にどのような相談ができる場なのか、さらに地域住民に理解が深まるよう広報活動を継続してほしい。町担当者との関係は良好で、夕方からの運営推進会議の参加も可能な限り参加してもらっている。また、事業所として中学生の福祉体験の受け入れもしている。町内のグループホーム連絡会とのつながりは強く、互いに課題解決に向けてアイデアを出し合ったり、合同で運動会を開催したりするなど、支えや励みとなる関係が構築されている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	・相談を受ければ対応したいが実績はない			△		○
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	・地域の老人会の方々と干し柿作りを行い、お茶を飲み会話すなどはある					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	・依頼があれば受け入れる体制はある					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	・内子町グループホーム連絡会に参加しており連携を取り活動をおこなっている「認知症講演会」の案内等を広報に掲載したり、内容により行政から話を聞ける体制がある					◎

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月29日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3893600035
事業所名 (ユニット名)	グループホーム紅葉の里・おだ かえで
記入者(管理者) 氏名	谷岡 亜由利
自己評価作成日	令和1年 10 月 18 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 ・家庭的な雰囲気の中で自分らしい生活が続けられる笑顔で毎日が過ごせるホームを目指します。第二のふるさとと思っていただけのように暖かいもう一つの家族を作っていきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 *「紅葉便り」の内容をもう少し工夫し、手にとってよんでいただけるものとする。・家族様のご意見を言いやすいようスタッフみんなの声をかけをより親しみやすいものとしていく。→「紅葉便り」はスペースも限られているためレイアウトは特に変えることはしていないが、写真を少し多めに載せている。家族からは毎月の分を比べると顔の表情の変化がわかりやすいと意見をいただいた。 *運営推進会議の内容を有意義な者とするために地域の方にもっと当ホームを知ってもらおう活動として「紅葉便りの地域版」を発刊し、ホームを知ってもらい気軽に立寄ってもらえる環境を作り、意見を現場に反映させサービス向上につなげる。→「地域版紅葉便り」は発刊しており、地域の方にも「良い活動ですね」とご意見をいただく事がある。運営推進会議への参加までは行かないが、地域の方々に当ホームを認知いただけている。地元のカラオケ大会へ招待されたり、花を持ってきてくださったりしている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 県内全域に介護福祉事業を展開する法人が運営し、過疎・高齢化の進む地域にとって欠くことのできない事業所である。法人全体で研修に力を入れ、職員が働きながらスキルアップを図り、委員会活動などの役割を担うことでやりがいを持てるよう就業環境を整えている。研修での学びから、職員は利用者の最期の日まで人間らしい存在であり続けることを支えるケアメソッド「ユマニチュード」を実践に取り入れることで、少しずつ利用者の反応の変化を感じ始めている。天気を確認しながら日課の散歩を自由に楽しんだり、鉢植えの花を管理したり、庭先のベンチで日向ぼっこしながらくつろぐなど、利用者の表情は和やかで、住み慣れた愛着ある地域での暮らしを満喫することができている。</p>
---	---	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	・普段から利用者の話を聞き気持ち理解しようと会話している	○	/	△	生活の中での会話や表情、しぐさを見るほか、家族から意見を伺うことで希望や意向を把握している。アセスメントシートや日々の介護記録の特記欄を活用し、把握した情報を記録するように取り組んで欲しい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	・スタッフみんなで話し合いながら本人にとってどうか、本人はどうかという視点で検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	・ご家族の意見も尊重しながら支援している、面会にこられると特に意見を確認している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	・センター方式の自分の気持ちシートの活用や普段からの聞き取りを記録している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	・毎日の暮らしの中での会話を通し思いを知りスタッフ間で更に話し合っている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	・サービス開始前に個人の情報や家族さんからの話、聞き取りを行い、情報を整理しスタッフに周知し、各自確認している サービス後も情報は共有している	/	/	△	入居前の生活歴や暮らしの情報等は利用者や家族、これまで利用したサービス事業所から聞き取り、書面にまとめている。入居後に収集した情報も新たに追記していくことで、利用者をより深く知ることができるよう工夫して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	・普段の生活の中で観察を行い、センター方式の一部を使用して作成、全員で共有している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	・普段の生活の中での観察や申し送りノート、介護記録等々情報共有している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	・観察や申し送りで確認し、要因の可能性を話し、本人にも話をしっかりと聞くように努めている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	・申し送りや介護記録等で把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	・その場やスタッフ会において検討している	/	/	○	月1回開催するスタッフ会では、事前に家族に意向を聞き、利用者に必要な支援について話し合っている。話し合いでは、職員同士が気軽に意見を話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	・仕事中やスタッフ会にて検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	・カンファレンスにおいて課題を話し合い、介護計画に取り込んだり、解決のための工夫をしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	・本人、家族に確認し、作成している	/	/	/	利用者ごとに担当職員が付き、アセスメントやモニタリングを担当している。管理者や計画作成担当者がそれらを取りまとめ、介護計画書を作成している。職員は利用者一人ひとりの目標に見合った内容となっているが再考し、アセスメントやモニタリングに基づき、小さな成功体験を繰り返しながら共に喜びを分かち合っている具体的な記載を望みたい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	・定期的なカンファレンス以外に、日常的に本人及びスタッフ、面会にこられた家族の意見や思いを確認している	○	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	・穏やかに過ごせるような計画としている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	・ご家族への報告や相談、催し、外出等盛り込まれている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	・いつでも手にとって確認できるようにしてある	/	/	○	スタッフ会で介護計画を把握して理解し、職員間で内容を共有している。担当職員が計画の実施状況を取りまとめ、モニタリングを行っている。介護計画に沿ったケアの内容は項目ごとに番号を入れ記入している。利用者の様子は職員同士の会話や申し送りで共有することが多く、記録のボリュームや内容は職員の個人差がある。職員の気づきや工夫、アイデアは、口頭での共有が主であり、申し送りノートを使用することもあるが、介護記録の欄を活用し、アセスメントや介護計画に反映させて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	・介護記録に記載し、各自確認し印をおす、また、申し送りやノートで情報共有して、支援に繋げている	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	・介護記録に記載している	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	・スタッフ間で情報交換しており、いいと思うものは申し送りノートに記載し実行するようにしているが、全てをしてはいない	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	・定期的に行っているが、状況と変わればその都度行う	/	/	○	介護計画の見直しは6か月ごとに実施している。毎月担当職員が計画の実施内容をモニタリングし、利用者の状態に変化が生じた場合には随時家族と話し合って現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	・毎月モニタリングをして確認している	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	・変化があった場合は家族に報告連絡し、スタッフ間で話し合っている、計画見直し必要であれば作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	・月1回は定期的な会議をもち話し合い記録しているが普段度々している小さな話し合いは記録していない	/	/	○	毎日の申し送りやスタッフ会を課題解決の場として活用している。緊急案件がある場合には、当日の勤務職員で話し合いを行っている。話し合いの内容は申し送りノートで全職員に共有し、確認後に押印している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	・スタッフみんなが意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	・集まりやすい方々に開催している 場所はホールであったり会議室であったりしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	・書記が必ず伝える仕組みを作っている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	・申し送りノート、口頭等で行っている	/	/	○	家族のやりとりや医療情報も含めた支援全般の情報や業務に関わることは、申し送りノートで全職員に共有できる仕組みを作っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	・申し送りノートは確認すれば印を押す仕組みにしている また口頭においても具体的に伝えていく	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	・全ての利用者に毎日是对応していないが極力努力はしている	/	/	/	1日の過ごし方を自発的に決められる利用者は、天気を確認しながら散歩に出かけ、事業所での集団生活の中にも自由な暮らしを楽しむ様子が窺えた。思いを伝えることが困難な利用者や部分的に支援が必要な利用者が多く、職員は気持ちに寄り添い、したいことを自由に選べるように心がけている。生活歴などのこれまでの情報を活かした会話が聞かれ、懐かしさや話題が広がるやりとりが行われているが、発言の少ない利用者を含めたすべての利用者に、アセスメントを活かして言動や表情を引き出すような工夫をして欲しい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	・レクの内容や、歌謡曲を選んだり、ご飯の量やおやつ、掃除や体操、散歩等への参加の有無等々確認している	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	・それぞれ利用者の状況に合わせて、働きかけている特にコミュニケーション技法を使い利用者の気持ちに寄り添えるよう努めている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	・利用者それぞれの生活リズムを崩さないようその方に応じた習慣やリズムで対応している	/	/	/	
		e	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	・利用者が嬉しいと思えることや好きなことを把握し、やりがい等感じていただけるよう努めている	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	・表情、言動、生活層などからスタッフと話し合い、意向に沿えるよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	・利用者の人権や尊厳、プライバシーを守る研修を受け、声かけや態度に注意している	/	○	○	毎年、職場内・外研修で学んでおり、参加した職員はスタッフ会でフィードバックしている。管理者は「声かけには注意したい」という課題を持っており、全職員の支援を振り返り、自ら気づきを持てるようにして欲しい。また、管理者は概ね優しい言葉で対応できていると評価しているが、時には職員の言葉遣いや声の大きさなどに配慮が欠けている場面もあり、十分に配慮した対応を目指している。居室の出入りには、職員からノックや声かけを行い、不在の居室ドアは閉め、利用者専用の場所である認識が根付いている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	・一人ひとり利用差にあった言葉かけや対応を心がけている	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	・自尊心を傷つけないようプライバシーに配慮し注意を払っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	・入室時は必ずノックをしてから入るように努めている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	・同意書を会社とかわしており、利用者の事を外部に漏らさないよう日頃より注意している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	・利用者一人ひとりに歴史があり、料理の仕方や祭りや季節の行事等教えてもらう事で多く感謝の言葉を伝えている	/	/	/	調査日には、利用者同士が連れ立って散歩に出かけたり、様子や隣り合う利用者同士が歌詞カードを指差しながら仲睦まじく歌ったりする様子が見られた。世話を焼くことが好きな利用者が度を越してしまうことでトラブルを招きやすいため、職員は十分に様子を見守り、時には間に入りサポートしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	・日々の暮らしの中で、利用者同士が声かけあったり、手伝いをしたりすることが大切であることを理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	・利用者の関係性を把握し、トラブルが回避できるようテーブル席やソファ席、入浴の順番などにも配慮している また難聴の方が孤立しないよう積極的に会話を繋げる役割も務めている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	・必ず間に入り双方の意見を聞き、不安や不満が大きくなりたくないよう努めている、	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	・入所前の調査や本人、家族より情報を収集し、把握している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	・本人、家族から情報を得てその後も少しずつ把握していくようにしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	・全ての利用者に対してきてはいないが、地元の敬老会等に参加される方もいる				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・気軽にいつでもいらしてもらい、居室やホール等でゆっくり会話できるよう努めている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	・過ごしやすい季節には散歩を楽しまれる利用者もいる(安全確認等行っている) ・ホーム前庭でテーブルを出してお茶を飲んだり、ベンチに腰掛けて会話したりしている	○	○	○	日常的に散歩を楽しんだり、隣の住宅の大きな庭園を借りてお茶を飲んだりしている。事業所前に置いたベンチには、好きな時に利用者が気分転換の様子も見られた。重度の利用者にも、状態や体調に配慮しながら居室に閉じこもることのないよう戸外へ出る機会を作っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	・外出はしているが、ボランティアやサポーターの協力は得ていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	・ホーム前庭でお茶を飲んだり近道を散歩したりしている 遠くへは行かない			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	・ご家族の協力でお墓参りや地元の知人宅等に出かけている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	・認知症の研修やユマニチュド研修に参加し、認知症について理解しようとする努力、スタッフ間でも話し合いを繰り返しながら不穏等軽減できるようケアを行っている				利用者ができることは職員間でアセスメントを行っている。管理者はできることは見守り、できそうなことは職員と一緒に行動する姿勢を持っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	・普段から体調変化に注意し、動き等も観察している、体操やレク、個別の運動等を通じて維持できるよう努めている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	・安全に配慮し、時間がかかっても見守りや声かけを行い達成感や自分の役割と考えている気持ちを大切に対応している	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	・それぞれの利用者のできる事や役割を把握し、そういう場面を作れるよう努めている				大切な存在である思いを伝えながら支援するユマニチュドの技術を学び、職員は認知機能が低下した利用者にも安心してケアを受け入れてもらえるように関わっている。利用者は洗濯物干しや食器洗い、掃除などの家事を中心に役割や出番を持ち、介護計画に盛り込んでいるケースもあるため、可能な限りすべての利用者へ支援が広がることを期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	・普段より利用者一人ひとりの楽しみや役割、出番等ができる場面を作って楽しめるよう努めている	○	○	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	・地方祭等で地域の知人等に会えることを楽しみにされている等の支援をしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	・着替えの洋服など本人に選んでもらうよう努めている				利用者のプライドに配慮しながら、職員は季節に応じたコーディネートができるように支援している。どの利用者も清潔に身だしなみが整っていた。食事の際には、利用者の食べこぼしをさりげなく拭う職員の様子が見られた。重度の利用者には、家族の協力のもと、利用者と一緒に服を選ぶように声かけをしている。利用者の本人らしさを追求した支援ができるよう、おしゃれのアセスメントを取り入れて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	・本人が気に入り今まで使用していたものを利用したり、家族が持参した物を使用している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	・季節に応じた服装と一緒に選び、決定を本人にしていだくよう努めている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	・その場にあった服装など支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	・その都度さりげなくカバーできるように努めている	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	・希望がある場合は対応に動いている ホームに来てもらいカットしてもらっている人が多い				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	・本人らしさが保てるよう工夫支援している			△	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	・食事を楽しく美味しく摂れる大切さを理解できている				日常的に食材や調理方法について職員間で話し合いながら、週ごとに職員が持ち回りで利用者の好みを取り入れ、献立を作成している。法人本部の栄養士に食事全般の相談ができ、医師からのアドバイスも取り入れられている。事業所からスーパーなどの店舗は遠く、注文配達を利用せざるを得ない状況である。下ごしらえなどの調理を利用者と一緒に行うこともある。各ユニットで違う献立であり、利用者の好みやアレルギーの有無にも配慮している。利用者の家族が差し入れた地域特産の椎茸や前日に利用者と仕込んだ袖子の「ゆねり」を箸休めに添え、職員や利用者の中で懐かしい話に花を咲かせていた。食器類は使いやすさを重視し、プラスチック製の軽量食器を事業所で準備している。居室内では、持ち込んだ好みの食器を使う利用者もいる。職員は声かけや見守り、食事介助のサポートを行っている。午前と午後のお茶の時間は職員と一緒にしているが、食事は一緒に食べていない。体調を崩している利用者を除き、すべての利用者が同じリビングに集い、食事を楽しみに待っている様子が見られた。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	・自分の食器を洗ったりテーブルを拭いたり等一緒に行っている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	・後片付けなどは自分から進んでされている方もいて自分の仕事と考えており、支援している				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	・本人、家族から聞き取りし把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	・誕生日には特に本人の希望を取り入れている。また季節の食材を使用し旬のものを味わっていただくよう努めている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	・下痢等体調不良時はおかゆ等に切り替えたり、嚥下不良の方には食べやすい大きさや水分を寒天で固めムセを防ぐ工夫をし摂取状況を観察し食べやすくできるよう努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	・軽くて割れない、持ちやすい食器を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	・食事時間は介助しながら利用者全体を見守り、適宜声かけ対応している 月一回一緒に食事をしている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	・ホールにキッチンがあるので調理の音や匂いがダイレクトに感じていただいている「今日は何ができよるの？」と聞かれることあり			○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	・摂取量はそれぞれ違うのがスタッフはそのあたり把握しており、分量はチェック表にて確認しながら、確保している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	・食べやすく工夫したり好きなものを増やしたりして対応している 水分も同様に対応している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	・栄養士はいないが、同じメニューが続かないよう工夫し、資料等も参考にしている 当ホームに入所してから血糖値が安定する方が多いと協力医のコメントあり			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	・調理用具は毎日消毒し清潔を心がけている 食材に関しても使用日の日付を入れ管理している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	・研修等にて十分に理解している				不具合の訴えや様子の変化に応じて、利用者の歯科受診につなげている。セルフケアができる利用者の口腔内の状態を見逃しがちであるため、すべての利用者の現状を定期的に確認して欲しい。できることを行ってもいながら難しくなっていることを介助し、セルフケアできる利用者は食後に職員から声かけをすることなく居室に戻って口腔ケアを済ませ、使用したうがい受けなどの用品を手入れする様子が見られた。職員は勉強会で口腔ケアを学び、実践に活かしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	・概ね把握できている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	・歯科衛生士より歯ブラシの選び方や磨き方等学び利用者の口腔ケアに行かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	・義歯ブラシできれいに洗い洗浄、夜間は義歯洗浄剤につけて衛生的に支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	・毎食後口腔清潔のための行動を支援している(義歯洗浄や歯磨き、うがい支援、口腔内残渣の確認等)			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	・様子を見て歯科医へ治療に行っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	・理解している トイレでの排泄をできる限り支援している				職員は利用者の排泄パターンに応じた声かけや誘導を実施し、トイレの排泄を基本に支援している。汚染したパッドを居室内各所にしまい込む利用者には、処理用のバケツを用意して、清潔が保持できるように工夫していた。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	・理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	・排泄チェック表を利用している パターン把握している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	・排泄状況(量や失禁状態等)により見直しを行っている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	・食事量、水分量、薬等の可能性の確認、場合により協力医への相談等行い、改善に努めている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	・排泄チェック表や日頃のパターンから実施している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	×	・ほとんど職員間で話し合い、相談して適材であるものの使用を進めている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	・本人の使用しやすい物や尿量等に応じ使い分けしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	・一日の水分摂取量や繊維質の摂取など工夫はしている またヨーグルトや運動も取り入れている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	・利用者の希望日に入浴できるようにはしていないが、温度や長さ、順番等には対応している また入浴拒否等ある場合は無理強いないし、翌日に対応している	◎		○	週3回、基本的に午後から入浴時間と設定しており、季節や利用者の希望に応じて入浴できるよう配慮している。現在は利用者からの毎日の入浴希望は聞かれていないが、管理者は希望があれば検討したいとしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	・ユニットバスにて個室のため、他者に気兼ねなくゆっくり落着いて入浴できるようにしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	・自分で洗身やシャワーできる方、そうでない方状態に応じて安心安全に配慮し入浴できるよう支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	・声かけを複数回に分けたり、声かけの内容を工夫し、無理なく自然に入浴できるよう工夫している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	・バイタルチェック、健康観察実施し、入浴中、その後においても観察継続している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	・夜勤者、申し送り等にて把握できている				ほとんどの利用者は良眠である。認知症状の進行が顕著で、昼夜逆転、睡眠障害などの周辺症状が強い利用者が2名おり、現在日中の活動や過ごし方についてアセスメントを行い、支援方法を検討している。精神面で服用が必要になる利用者もいるため、その場合は医師と相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	・日中の活動を増やしたり、体を動かしたりする事を増やすなどまた心配事がある場合は傾聴し不安の軽減に努めている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	・不眠時は安全を確保し本人が納得できるよう過ごしてもらうよう努めている そのための薬剤を増やさないよう対応しているが睡眠不足が続くようになると薬剤を使用する場合もある				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	・昼寝や休みたい時に横になれるよう取り組んでいる				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	・本人が希望したり、連絡の必要性を感じた場合は電話して話をさせていただくように支援している				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	・年賀状などシールを貼ったり名前だけ書いていただいたりして気持ちを込めて作成し届けるよう支援している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	・携帯電話を持っている利用者は自由に連絡されている 他の利用者も電話をしたい等の希望あればかける様支援している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	・手紙は本人にお渡しし、その後家族にもお伝えしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	・必要時は家族に協力をお願いしている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	・全ての利用者が自分でお金を所持していないが、意味の大切さは理解している				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	・ホーム周辺に買物できる店がないため出かけていく買物レクやホーム内で開催する買物レク以外ではあまり機会がない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	・近くに店がないため働きかけは行っていないが、年2回ホーム内で行い巡回物レクの業者には協力理解等行っている				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	・数名は自分で財布を所持しており、外出時に買物したりしている 入所時自分で持っていたが、事務所に預けている人もいるが買い物レクの時には持ってもらっている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	・入所時に話し合っているが毎回行っていない				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	・預り金に関しては事務所金庫に保管し、金銭出納帳を作成し、必要時家族に確認してもらっている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	・家族が対応できない病院受診等	◎		◎	へき地に所在するため交通が不便であり、利用者の病院受診や買い物の依頼など、職員は日常的に要望に添えるよう柔軟な対応ができています。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	・常に掃除を行い清潔を心がけている 季節の花を植えたアプローチや絵や花を飾ったりして明るい雰囲気づくりに努めている	◎	◎	◎	訪問時は冬の始まりを迎え、霜が降りる時期であったが、敷地内のシンボルツリーである紅葉の木の紅葉も美しく目を楽しませてくれる。玄関前に並ぶ沢山のプランターには、色とりどりのパンジーを植え、春を迎える準備が行われていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	・掃除を心がけ清潔にしている 玄関には花を飾り、廊下には利用者の写真や作品を飾り、季節に応じた展示物などで心地よい空間を造っている また居室は自宅から馴染みの家具を持参している方もいる	◎	○	○	共用空間は木材をふんだんに使用した温かみを感じる雰囲気、すっきりと整理されている。外を散歩する利用者に手を振り、家庭的な暮らしが実現されている。リビングの2面が窓となっているため、事業所内には自然光が行き届いている。掃除は利用者と一緒にすることもあり、浴室やトイレの換気は十分に行われ、清潔な状態であった。リビングには食事をするスペースとテレビを見るスペース、レクリエーションを楽しむつろぎのソファのスペースなど、シチュエーションごとに使い分けができることも利用者の刺激の1つとなっている。洗濯ものを畳んだり、モップがけを利用者が職員と一緒にやってみようと思わせる工夫をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	・毎日掃除は行っている 特にトイレの臭いには気をつけ消臭剤等使用している				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・季節の食材や植物、節句人形やクリスマスツリー、正月飾り等など見たり食べたりして感じてもらっている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	・ホール、居室どちらにいても双方の様子が伝わるようになっている 終日気の合う利用者同士が楽しそうに会話していることが多い				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	・廊下に面してドアがあるがホールからは見えなくなっている 使用時は常にドアは閉めてある				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	・自宅で使用していたものを持ち込んだり飾ったりして、雰囲気を居心地浴している	◎		△	居室には使い慣れたタンスやテーブル、いすなどを持ち込み、利用者や家族が協力して自宅での暮らしを再現するなど、居心地の良い空間づくりをしている。不快な臭気を感じる居室もあるため、配慮した対応を望みたい。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	・居室前には表札を掲げトイレや浴室の表示もある 利用者に分かりやすく使いやすく工夫している			○	居室ドアと間違いやすいトイレのドアには分かりやすく表示をしている。玄関床とスロープが同色同素材であるため、境目にテープを縁取って注意喚起し、自立歩行の利用者もスムーズに出入りできるような工夫が確認できた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	・同上				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	・自分の部屋は好きなように飾ってもらっていい、買物レクで購入した物や家族の持参物、写真等飾ってある 新聞や広報紙等置いている方もある				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態では暮らしの不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	・理解している 日中は鍵をかけていない	◎	◎	◎	日中に玄関の施錠はなく、階段にある転落防止の門扉にも施錠はしていない。職員に研修で鍵をかけることの弊害について十分な理解し、実際に自由に出出する利用者の姿が見られた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	・日中鍵をかけていないことに関して家族からは不安視する声はないがあれば理解していただけるよう話し合うよである				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	・散歩する方がいることは近隣に伝えてあり見守り等お願いしている 玄関外にベンチを設置しており、気分転換等に利用していただいている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	・医療情報等で各自確認している また新しい情報は送りやノートにて確認把握できる				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	・毎日のバイタルや健康状態に関して記録しており、異常等注意している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	・定期的な訪問看護師や協力医に気軽に相談できる関係であり、入院に繋げる等実施している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	・協力医はいるが、希望すれば望む医療機関を受診できるように支援している		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	・支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	・必要に応じて家族に説明したり話し合ったりしている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	・相談員や看護師と連絡を取り書類や電話等にて情報を提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	・定期的に相談員と情報交換している				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	・不定期だが関係作りに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	・週1回訪問看護師に来てもらい健康観察等してもらっているが定期以外でも気軽に相談でき、アドバイスをもらうことができる				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	・いつでも相談できる体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	・異常時にも対応してもらえる体制があり、早期の治療に繋がっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	・薬剤情報をスタッフがいつでも確認することができまた理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	・誤薬のないよう、二重チェックを行い取り組んでいる				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	・表情、行動、言動、体調等確認している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	・飲みにくいようであれば粉にしておもらい依頼をしたり、体調、症状の状態の観察を行い記録し情報提供している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	・入所時に一回説明するが、その後状態変化に応じ家族と話し合いを行い意向を確認し方針を共有している	/	/	/	看取り支援を実施し、利用者の状態の変化に応じて家族や医師、訪問看護と連携を密に行い、方針を共有している。常に緊張感を持った支援が続くため、管理者は職員のストレス軽減や思いの共有に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	・共有できている マニュアルを作成し方針を共有している	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	・スタッフにある看取りの不安等について理解し、また力量把握している 支援の見極めを行っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	・丁寧に伝えることを心がけて説明に当たっている 股理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	・利用者日々の変化に応じてスタッフ間、訪看、協力医と連携しながら対応している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	・気持ちに寄り添えるよう努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	・スタッフは研修会に参加し、そこから再度他のスタッフにも伝え研修できるように学んでいる	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	・マニュアルを作成している また感染対策キットを事務所に準備しており素早い対応ができるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	・ニュースやネットからあるいは行政からの情報を確認している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	・保険所、行政地域の学校等からの情報を確認している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	・出勤時手洗いうがいは励行している また来訪者にも手指消毒剤やマスクを準備し熱発ある方の面会は遠慮いただくよう貼紙している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	・利用者の状況や性格を把握し、面会時の家族との情報交換や意向の確認等を行いながら関係性を築いている	/	/	/	毎年家族会を開催し、運営推進会議でも利用者と一緒に園芸や食事を楽しめるように工夫している。日々の暮らしや運営上の事柄や、職員の異動などを毎月の「もみじ便り」で伝えている。利用者の状態の変化に応じてその都度家族に連絡し、連絡方法も電話やメールなどの家族の希望に応じた対応をしている。来訪する家族も多く、どの職員も日常の暮らしや変化を伝えることができるようになっており、気軽に相談できる雰囲気を感じている家族の心情を理解している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	・スタッフは明るく元気に気持ちよく対応する事を心がけており、家族が気持ちよく過ごせるよう備品やお茶等準備するよう努めている 宿泊に関しては看取りの時以外泊まる事はされない	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	・行事や催しへの声かけを行い気軽に参加いただける機会を作っている(運動会、もみじまつりなど)	◎	◎	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	・毎月「もみじ便り」を発行し利用者の様子をお伝えしている 分かりやすい文章や写真を多用し見やすく楽しいものを作成できるよう心がけている	◎	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	・家族も思いに関してはお便りだけではなく電話対応や資料等をお送りする事もある	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	・利用者の状態に関してはきちんと正確に伝えるようにしているが、家族がそのことでホームに気兼ねしたりしないよう言葉遣いや対応等にも注意している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	・毎月の「もみじ便り」でも報告するが、それ以外に別紙にて送る事もある	○	○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	・運営推進会議、運動会、もみじ祭りなど複数の家族が揃う機会を設けている 自然に会話が生まれ交流している	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	・利用者の健康面や生活面の変化など伝えるよう心がけている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	・必ずスタッフあるいは管理者が対応し、意見要望相談の確認をしている また電話やお便りも利用している	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	・基本管理者が対応している きちんと説明し理解納得を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	・丁寧に説明し納得いく退去先に移れることができるよう支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	・変更理由説明等の文書を作成し、同意書をいただいている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	・設立時には説明会を設けたと聞いている。その後は地域の一部の方にもみじ便りを送付、現在は地域版を送っている	/	◎	/	地域との関わりの中で、自治会が事業所にとって大変協力的で支えとなっている。地域行事の情報を得て、可能な限り積極的に参加している。農作物や花を差し入れてくれる地域住民もいるなど、地域との関係も構築されている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	・毎月発行している「地域版もみじ便り」を地域の住民に見ていただいている。地方債や催し等参加できるものには参加している。また、外出時の挨拶等はしている	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	・散歩をしている利用者の見守りや声かけていただいている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	・地域の老人会の人に来てお茶を飲んだり話をしたりしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	・ホーム前を通っている学生や近所の方たちと挨拶を交わしたり、話したりしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	・地元のボランティアの方々の踊りや行事への参加、セラピードッグや幼稚園児の訪問、地方祭獅子舞訪問等	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	・地域の方の見守り支援、地方祭時の神事や獅子舞訪問など支援いただいている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	・「地域版もみじ便り」の発行。地域の商店の協力で買物レクの実施ができ、利用者に買物を楽しんでいた	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	・参加人数の少ないときもあるがバランスはよい	/	○	○	運営推進会議は参加者が集まりやすい夕方の時間帯に開催している。参加者数の変動はあるが、利用者や家族、地域の住民が毎回参加し、管理者はマンネリ化を懸念しながら参加者の印象に残る会議の工夫を検討している。会議では参加者から一言でも発言してもらえるよう配慮し、利用者の暮らしぶりや運営状況の説明だけでなく気軽に意見交換を行うなど、地域住民に理解や関心を持ってもらえるように分かりやすい説明に努めている。参加者から出された意見や情報を運営に反映し、状況や結果報告を写真などを用いて分かりやすく伝えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	・都度説明報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	・参加いただいた方皆さんに意見を求めている。質疑応答もあり結果報告している	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	・行事とドッキングして開催する時もあり、時間を調整し、参加しやすくしている	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	・いつでも見られるよう玄関にファイルを設置している。また参加できなかった家族にも送付している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	・玄関及び事務所に掲示してあり日々目に付くようにはなっている 普段の会議において理念に近い表現でスタッフに伝えてはいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	・掲示しているが、伝えることはしていない	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	・研修委員会があり、スタッフが研修に参加しレベル向上に努めるよう取り組んでいる	/	/	/	法人代表は職員会議などに参加し、職員と顔を合わせている。委員会活動を通じて職員の自主性を育てたり、法人全体でユマニチュードケアの知識を深めたり、ストレスケアチェックを実施するなどの工夫をしている。法人本部とは離れた場所に事業所はあるため、管理者は法人と職員をつないでいる。すべての職員が女性で、平均年齢が60歳を超えているため、管理者は今後の人材育成を課題としている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	・定期的に勉強会を開き、ホームに講師を呼んでユマニチュード研修や口腔ケア研修また外部研修に参加できるようにしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	・成長シートを取り入れ各職員の取り組み姿勢や成果を評価できるように取り組んでおり、環境整備の予算等も理解している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	・法人内の成長支援会議や他法人との連絡会、地域密着型サービス協会への加入等の取り組みがある	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	・衛生推進委員会があり、そこから各事業所に腰痛防止、ストレス対策等の情報があり、取り組みしている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	・研修、勉強会参加にて理解している	/	/	/	虐待や身体拘束に関する委員会活動を通じて学び、職員に正しい認識が広がるよう努めている。気になる行為の発見時には職員から管理者に報告することになっており、職員は手順を理解している。管理者は利用者への声かけの面では注意が必要だと感じており、職員が適切な対応ができていないか振り返り、職員自ら気づきを持てるような取組みを望みたい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	・日常的に行っており、その都度話し合っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	・不適切なケアが行われないようまずスタッフの虐待防止の理解、管理者の注意、確認等に取り組んでいるまた発見した場合は手順を理解している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	・諸君とコミュニケーションをとり聞き取りして注意している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	・研修や会議の内容等において理解できている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	・職員会時に委員会を持ち話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	・説明し理解をいただけるよう努めている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	・研修に参加し、理解できるよう努めている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	・研修を受けて制度についての理解をしているが、必要な方には支援できるよう努めたい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	・相談できる関係性は築けている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	・緊急時、及び事故に対するマニュアル作成し、周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	・地域の消防署に協力を得て訓練したり、研修に参加し対応について確認している。ただし実践力は不明				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	・事故報告書、ヒヤリハット共に発生した場合は会議において検証、対応策を講じている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	・スタッフ会やその都度話し合いを行い、柔軟に対応し事故防止に繋がるよう努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	・マニュアル作成しており、スタッフは確認している。苦情があった場合はのっとって対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	・マニュアルに沿って速やかに対応できるようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	・苦情についてはスタッフ、管理者で検討し場合によっては会社責任者に連絡して指示を仰ぐようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	・日々の生活の中で自由に伝えられるような関係性を築く努力はしている。またこちらからさりげなく聞く事もある			○	利用者から意見や要望は日々の生活の中で聞いている。また、運営推進会議に参加して意見を伝える利用者もいる。意見を聞くことが困難な利用者には家族からの意見を重要にし、日々の連絡や来訪の機会を活用して何でも話してもらえるよう職員から声をかけている。職員の多くは意見を自由に伝え、家族から頼りにされている様子が窺えた。管理者はさらに信頼しあえる職場づくりを目指しており、前向きな力を感じることができた。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	・玄関に意見箱設置している。また普段より要望や意見を伝えやすいようお便りや推進会議、面会時、家族会等においてもこちらから声をかけている	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	・契約時にお伝えして以降は相談があればお伝えするようにはしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	・定期的な訪問はないが、要望や提案等についての意見は伝えやすい環境にある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	・日々のミーティングやスタッフ会またその都度話を聞いてくれ、より良い支援や事業所の姿勢について話している			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	・サービス評価の意味や目的を理解し、全スタッフで自己評価に当たっている				サービス評価の目的を事業所は正しく理解し、職員に丁寧な説明を行っている。家族や地域住民にも評価の理解が徐々に浸透し始め、引き続き理解が深まるよう継続して周知して欲しい。また、定期的開催される運営推進会議を活用し、目標達成に向けてモニター協力を働きかけて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	・評価を通してきていないことや今後の課題等認識しスタッフ全体で今後に活かすよう努めている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	・結果を踏まえスタッフみんなで取り組むよう努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	・運営推進会議にて報告し、今後の取り組みに関して経過を見ていただいている	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	・確認している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	・自然災害、火災等マニュアルは作成しておりスタッフもいつでも確認できるようになっている				管理者は過疎・高齢化の進む地域住民に、訓練への協力依頼が負担とならないか不安に思っている。今までに被災経験はないが、土砂災害の警戒区域に指定されている地域に事業所が位置するため、災害に対する不安要素が大きい。運営推進会議でも災害に関する意見交換が行われているものの具体的な対策がなく、家族や地域住民との協力、支援体制の早急な構築を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	・訓練は行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	・定期的ではないが、訓練の時などに行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	・消防署には訓練に参加いただき、講習ももらうようにしているが地域住民や他事業所の参加はない	△	○	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	・災害時には協力いただく介護施設はあるが共同訓練は行っていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	・事業所でユマニチュード研修会を開いたり、内子町グループホーム連絡会で「認知症講演会」や「勉強会」を毎年開催している				「もみじ便り」の地域版を自治会に配布し、運営推進会議で意見をもらうなど、声をかけてくれる地域住民が増えたと実感している。今までに相談事例はないが、事業所として具体的にどのような相談ができる場なのか、さらに地域住民に理解が深まるよう広報活動を継続してほしい。町担当者との関係は良好で、夕方からの運営推進会議の参加も可能な限り参加してもらっている。また、事業所として中学生の福祉体験の受け入れもしている。町内のグループホーム連絡会とのつながりは強く、互いに課題解決に向けてアイデアを出し合ったり、合同で運動会を開催したりするなど、支えや励みとなる関係が構築されている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	・相談を受ければ対応したいが実績はない		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	・地域の老人会の方々と干し柿作りを行い、お茶を飲み会話すなど				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	・依頼があれば受け入れる体制はある				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	・内子町グループホーム連絡会に参加しており連携を取り活動をおこなっている「認知症講演会」の案内等を広報に掲載したり、内容により行政から話を開ける体制がある			◎	